

(様式1)

自己評価票

作成日 平成 年 月 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101151		
法人名	社会福祉法人 愛の会		
事業所名	いろり端水戸	ユニット名	式番館
所在地	〒311-4144 茨城県水戸市開江町国置8番地		
自己評価作成日	平成 24 年 4 月 11 日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・入居者の高齢化や重度化に伴い、表面に見えるものばかりでなく、思いの本質を見極め「本当の気持ちに」に寄り添い個別支援を行っている。・地域に認知症を理解してもらい、防災訓練の協力を得たり、近所の子供たちを花火大会などに招待し交流を図っている。また、地域の運動会や敬老会にも参加している。・近隣の市立保育園とは四季折々イベントなどで交流を深めている。・明るい雰囲気の中、会話を楽しんだり外出の機会を多く設けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	廊下や事務所などいつでも見られる場所に理念を掲示している。そして理念に基づいて処遇するように全職員が努めている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内で作成している広報誌を利用者と共に地域の方に配布したりしている。また、地域の敬老祝賀会に招待されたり、近くの水戸市双葉台保育所との交流を増やしている。避難訓練や花火大会などこちらのイベントに地域の方々に参加して頂き交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している窓口センターなどが主催する地域の方々に向けた講習会に、講師として協力している。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで市役所などの職員・民生委員・他GH施設長・利用者の御家族などを招いて開催している。その中でテーマに沿って話し合い、様々なアドバイスを頂き、日頃のサービスに活用している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が水戸市グループホーム協議会の役員となり、水戸市職員と共にグループホームの向上に努めている。運営推進会議にも水戸市職員の方々に参加いただき協力関係を築いている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止のマニュアルがある。また、廊下や事務所に「身体拘束のない介護のための指針」のポスターを掲示してあり、いつでも職員が確認し、理解できるようになっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のポスターを常に見られるところに掲示し、意識を高め防止に努めている。施設外で研修がある時は、参加するようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、現在利用されている方がいないが、問い合わせがあった時に必要に応じて御家族に情報を提供し、話し合いなどを行いながら、支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時・改定時には、利用者やその御家族の不安や疑問に対して説明し、理解・納得して頂けるようにしている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族が意見や要望を気軽に話しやすいようにこちらから声かけしている。 また、年2回の家族会で意見交換を行うほか、面会時や必要であれば電話連絡などでもご意見を伺っている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の全体会議・GH全体会議・ユニット会議・その他随時意見や提案を聞く機会を設け、反映するようにしている。半期に1度の人事考課制度の中でも意見や考えを述べられるようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で人事考課制度を導入している。定期的な面談のほか、随時面談も行っている。その際、職員各々のやりがいや向上心を聞く機会がある。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるように働きかけたり、職員から参加したい研修があれば受けられるようになっている。研修後は施設内研修を開き伝えている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内にある他グループホームとの交流研修を職員全員が行い、意見交換や情報交換をし、サービスの質の向上に努めている。また、水戸市グループホーム協議会などの研修に参加したり、他グループホームを見学したりして、質の向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人一人、どんな悩みや不安があるのか傾聴するように心がけている。そして、その不安を少しでも和らげることが出来るよう温かな声掛けをしてご本人に安心して頂けるよう努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至る初期段階は、特にGHに対しての不安や悩みが沢山あるので、GHの事を理解して頂き、ご本人の不安や要望、ご家族としてGHに望むものは何かなど念入りに話し合いを持つようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が本当に必要としているサービスは何かをよく理解し、プロとしてその方に合うサービス、ご本人とご家族が安心して納得できるサービスをアドバイスしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の「出来る力」を見極め、出来ることは行っていたら、その際感謝の言葉をかけることで「お互い支えあいながら生活しているのだ」という実感を感じていただけるようにしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に処遇を考えて頂けるように頻りに連絡をとり、ご家族からもアドバイスを頂けるような関係を築くようにしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人などに面会にいつでも来ていただけるように話をし、何度も足を運んで頂ける様な雰囲気作りを心掛けている。馴染みの場所に行きたいと要望があった場合にはできる限り行って頂ける様に支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で穏やかに過ごしていただけるように座席の配慮をしている。職員が間に入ることで、利用者同士が円滑なコミュニケーションを図れるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族と会った時には、挨拶をしたりしたり、ご家族ご本人の様子や施設の状況を話したりしている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりの中から要望や意向を聞き、取り入れていけるようにしている。また、意思表示の難しい方に関しては、ご家族と話し合い、なるべく本人本位に検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に必ずバックグラウンドを取り、どのような生活環境だったかこれまでの経緯などの把握に努めている。入居後もご本人やご家族から聞き出せることについては付け足して把握するようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、心身の状態の把握に努めている。ケアプラン作成時にはセンター方式で日常の様子をアセスメントし、現状の把握に努めている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者やご家族などの希望を聞くと共に、職員が日頃の関わりの中で感じた事や気付いた事をケース会議で話し合い、作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、情報を共有している。ケアの気付きや工夫については、申し送りノートへの記入やケース会議などで取り上げて話し合い、介護計画の見直しにも活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の受診時にご家族の都合がつかない時は、協力するように努めている。ご本人の要望に耳を傾け、個別に支援できるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園やお菓子屋、スーパーなどの場所を把握し利用者も活用できるよう努めている。出張美容もあるが、ご本人の馴染みの美容室に行くこともできる。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診し状態報告している。また状態変化時にもその都度受診したり、本人の希望や状態に合わせて眼科・皮膚科・歯科・整形外科にも受診している。ご家族が希望する病院の場合はご家族の協力により受診している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師としても利用者の様子・観察に来てくださる。その際に、状態報告や日常管理などの色々な処遇に対するアドバイスももらっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には、毎日面会に行きご本人が安心できるようにしている。病院関係者ともこまめに情報交換を取るようしたり、医療ソーシャルワーカーや看護師長と話し合ったりして、早期退院できる体制を整えている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎える早い段階でご本人の希望をそれとなく聞いたり、ご家族・かかりつけ医グループホームの3者で話し合いを重ね確認し、共有した方針を支援できるように取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアル化しており、職員全員が対応できるようにしている。また、救命救急についての研修に参加したりしている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中や夜間想定防災訓練を行い、利用者が避難できる方法を全職員が身につけるようにしている。地域の方にも協力をお願いし、参加していただいている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の誇りを大切に考えた言葉を選び、その方に合わせた声かけを行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的にコミュニケーションを図る事で、思いや希望を聞く機会を多く作ったり、その時の状態で思いや希望を表すことが出来なくても、日頃の様子を観察し自己決定できるように働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態に合わせて、出来るだけご本人の希望に合った生活をしていただけるように努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に好みを聞いたり、ご家族に聞いたりして、その方に合った身だしなみが出来るように支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の「できること」に合わせ、協力して一緒に食事準備や片付けを行うように努めている。食事をするときも、職員が一緒に座席で会話をしながら楽しく食事が出来るように努めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分摂取量の把握に努め、個々のADL表に記入している。それに合わせ、その方に合った食事・水分・栄養のバランスが確保出来るように支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや見守りを行いながら、口腔内の状態観察を行っている。介助が必要な方については、その方に合わせた口腔ケアを行い、状態観察をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄サイクルを把握し、排泄状態やパターンに合ったトイレ誘導や声かけを行っている。出来るだけ失敗を減らすことができるように努めている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、体を動かしたり、乳酸菌飲料や多めの水分摂取・食事量を個々に応じて調整し、予防に取り組んでいる。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できる機会があるので、ご本人の希望に合わせた入浴を楽しんでいただけるように努めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて休息していただけるように支援したり、安心して眠れるように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や用法・用量を職員全員が理解できるよう努め、服薬介助マニュアルに沿って全員で読み上げ、介助時に間違いのないよう、安全な支援ができるようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から好きなこと、得意なことをする時間をつくり、一人一人の役割を大切にする暮らしを実践している。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、散歩に出掛けたり、個々の希望に沿った支援ができるように努めている。また、ご家族が面会に来た時などは一緒に出掛けていただけるように努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理の出来る利用者については、買い物に行ったときなど本人所持のお金を使用している。本人所持が難しい場合でも、事務所で預り管理しているお金があるので、いつでも使用できることを伝えている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や友人から手紙がくれば、いつでもやり取りが出来るように支援している。また、電話をかけたい時にはいつでも事務所の電話が使えることを伝えている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な状況がないか、ユニット会議で話し合ったりしている。改善点があった場合にはすぐに改善できるように努めている。花や植物を置くようにしたり、掲示物を飾ったり、整理整頓も行き届き、心地よく過ごせるように努めている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>窓際に椅子とテーブルを置いて外を眺めながらお茶を飲んだり、ソファや椅子を置く事で休むことが出来るようにしている。一人になりたい時は、自由に居室に戻る事ができる。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具や長年使い慣れたものなどを入居時に持ってきてもらうようにしている。そして家庭に近い環境の中で、落ち着いて生活して頂けるよう配慮している。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の空間においては、ご本人の能力に合わせ障害物を除いたり、家具やベットの配置をかえたり、じゅうたんを敷いたりしている。また、衣類の保管ではご本人がわかりやすいようにラベルを貼り、自ら使用できるよう促している。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない